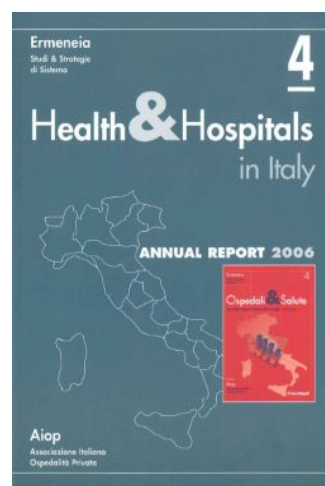




**Report on
AIOP Study Tour
in Japan
2009.10.5-8**

1. イタリア民間病院協会について



イタリア私立病院協会(AIOP; The Italian Association of Private Hospitals、以下A I O Pと省略)は、イタリア全土に支部があり、約 600 病院が加盟し、約 53,000 床を有する民間病院の団体である。

毎年発行している年次報告書は、医療関連のデータを扱うだけでなく、国民へのインタビュー等も紹介しており、医療関係者はいうまでもなく、行政、報道にも幅広く利用されており、高い評価を得ている。また対外的な活動として、年に一度の海外視察を実施している。

AIOP ホームページ <http://www.aiopgiovani.it/>

左上) A I O P の協会マーク

右上) A I O P が毎年発行している年次報告書

2. A I O P と全日本病院協会の交流

2008 年 5 月にイタリアフェラーラで行われた、I Q I P (International Quality Indicator Project) 会議において、I Q I P の日本の窓口となっている全日本病院協会(以下、全日病という)の西澤会長らが出席したことで、A I O P と親睦を深めることとなった。

同年 9 月、A I O P の青年部会長のアヴェラルド・オルタ氏が全日病を訪問し、2009 年に実施する予定の同会の海外視察ツアーを日本で行いたい旨を述べ、全日病へ協力を要請した。これに対して西澤会長が快諾し、今回の視察ツアーへと繋がった。



注) I Q I P ; アメリカのメリーランド病院協会が世界的に展開している臨床評価を用いたアウトカム評価事業

左) 2008 年 9 月、全日病会議室にて、A I O P の視察ツアーについての打ち合わせ会の様子

3. ツアー日程

【2009年10月5日(月)～8日(木)】

10月5日(月)	10時～11時30分 13時30分～14時15分 15時～17時15分	厚生労働省(講義) 日本医師会(講義) 日本医療機能評価機構(講義)
10月6日(火)	9時30分～17時	練馬総合病院(講義、見学)
10月7日(水)	9時30分～12時 17時～18時	永生病院(講義、見学) デイケアいかや(見学)
10月8日(木)	9時30分～16時	東邦大学医療センター大森病院(講義、見学)

4. ツアー参加者

合計 33 名

医師	2名
病院経営者	20名
その他の病院職員	4名
学生	4名
事務局	3名

5. その他の情報

- 宿泊ホテル：ホテルニューオータニ
- 移動手段：チャーターバス

6. 10月5日（ツアー第1日目）

●厚生労働省

ツアー初日の最初に厚生労働省を訪問し、阿曾沼医政局長からの挨拶があった。続いて高宮補佐より、日本の人口構造、医療費、医療提供体制、公的保険制度等、日本の医療制度全般の説明があった。

日本の医療のパフォーマンスの高さには、医師の献身的な治療があることが述べられたのに対し、参加者からはイタリアではウェイトングリストがあり、患者に負担がかかっている状況が紹介された。また質疑応答を通じて、日本でもイタリアでも救急医療に課題を抱えていることが明らかとなったが、イタリアには有料の救急車も活用されている等、異なる側面も浮き彫りになった。



●日本医師会

続いて一行は日本医師会を訪問した。石井正三常任理事から挨拶と、日本医師会の組織、活動、医療費等についての講義を受けた。

最後に石井常任理事より、世界医師会にイタリアも加盟してほしいとの要望が挙げられた。これに対してオルタ氏は、イタリアの医師会は公的であり、医師の加入が強制であること、私的に組織される医師会は医師の専門別であることが告げられたが、帰国後に前向きに検討したいと返答した。



●日本医療機能評価機構

初日の最終訪問先は、日本医療機能評価機構であった。はじめに河北専務より挨拶があり、次に菅原部長より、医療機能評価事業についての説明があった。最後には後部長より、産科医療補償制度、医療事故情報収集等事業、診療ガイドライン Minds についての紹介があった。

参加者より、イタリアには産科医療補償制度のようなシステムはなく、裁判で敗訴した病院が多額の慰謝料を支払わなければならないことが述べられ、同制度に称賛の声が寄せられた。



写真上) 参加者への挨拶する阿曾沼医政局長（於：厚生労働省）

写真中央) 講義を受け、メモをとる参加者（於：日本医師会）

写真下) 講義ともてなしに対する謝辞を述べる代表のオルタ氏（於：日本医療機能評価機構）

7. 10月6日（ツアー第2日目）

●練馬総合病院

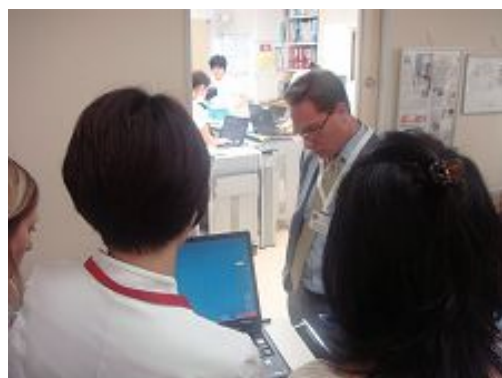
ツアー2日目は練馬総合病院を訪問した。

初めに飯田院長より、病院の概要、経営理念・質重視の経営（TQM）等の紹介があった。次に柳川副院長・MQI推進委員長より、MQI推進組織の活動、課題、改善への取り組みが説明された。続いて薬剤科科長・MQI推進委員長の金内さんにより、MQIの事例紹介がなされ、FMEA/RCAを活用した医療安全への取り組みについて解説があった。最後に質保証室の小谷野さんから、紙媒体の情報を必要とせず、全職員が閲覧できる情報システムについての紹介があった。

同院が継続的に行ってきたMQIに対し、国から何らかの支援があったかという参加者の質問に対し、飯田院長は国からの支援はなく、質の向上が最終的にはより良い医療の提供へ繋がることを信じて、工夫を凝らした活動に取り組んできたと回答した。



午後には3つのグループに分かれて、院内の見学ツアーを実施した。企画情報推進室・サーバー室、医療情報管理室、検査科、放射線科、内視鏡センター、健診センター、手術室、病棟等を見学した。院内の自家発電や火災対策等、運営面からの質問が挙がる中、とりわけ電子カルテに対する関心が高く、実際に使用している様子や操作方法を熱心に見学していた。



左上) 休憩時間を利用して参加者の熱心な質問に答える飯田院長

右上) クレジットカードによる支払いも可能な医療費自動精算機

左下) CT、MRIを見学する参加者

右下) 参加者からの特に高い関心が寄せられた電子カルテ・無線LANによる病棟携帯PC

8. 10月7日（ツアー第3日目）

●永生病院

ツアー3日目には、初めに永生会を訪れた。最初に飯田院長より、永生会の紹介がされた。次に安藤理事長より、慢性期医療の方向性と急性期から慢性期までの医療に対応するチームとしての永生会の目指す医療像が示された。最後に加藤さんより、八王子市内に4つの訪問所を所有してサービスを提供している在宅医療についての説明があった。

講義後、永生会の老健イマジン、永生病院、永生クリニック、グループホームじゅげむを見学した。



左上) 浴槽を見学する参加者



右上) 介護老人保健施設イマジンの前で記念撮影

●かいかや

最後に横浜ワールドポーターズへ移動し、ゲーム機の製造等で有名な（株）ナムコが運営するディケアかいかやを訪問した。2008年9月のJapan Timesに掲載されたかいかやの記事を通じて関心を持ったことから、今回の訪問へと繋がった。

ゲームを通じたリハビリテーション、心が動けば体も動くというコンセプトについての説明を受けた一行は、自らも様々なゲームを楽しみ、かいかやのコンセプトを体感した。



左上) 太鼓の達人を楽しむ参加者



右上) ワニワニパニックを楽しむ参加者

9. 10月8日（ツアー第4日目）

●東邦大学医療センター大森病院

ツアー最終日は、東邦大学医療センター大森病院を訪問した。

司会を長谷川友紀先生が務める中、最初に杉本病院長より、日本の大学病院の沿革と同院の歴史と概要が紹介された。次に長谷川敏彦先生（日本医科大学）より、日本とイタリアの医療制度が比較検討された。続いて松裏先生より、院内の電子カルテについての説明がなされた。年間約2,000万円の予算をもって1,300台のパソコンを稼働させることで、病院収益の改善や業務の軽減に繋げることが目標である点が述べられた。最後に事務部の岡野氏他により、医療材料等の物流システムが説明され、院内の各部署に材料等を運ぶSPDや、院内の物流システムを一方通行することで混在を防ぐ工夫が紹介された。

午後には院内の見学が行われ、中央材料滅菌室、病棟、中央手術室、救命センター、用度課、薬剤課、医療情報管理センターを見学した。普段では入ることのできない大学病院内の見学の機会を得た一行は、手術機械や一日の搬送件数等についての質問をしたり、薬剤の運搬方法や患者の情報管理についても質問したりした。また見学の最中に各部署で活用されていたSPDを撮影する場面も見られた。

最後にアンケート用紙を配布・集計した結果、同院の設備や人員配置の合理性、施設内の清潔感だけではなく、もてなしについても称賛の声が挙げられた。



左上) 司会を務める長谷川友紀教授
上段右は杉本院長

右上) 病棟師長への質問する参加者

左下) 手術室を見学する参加者

右下) 院内見学後の質疑応答の様子

10. 懇親会

10月8日（木）19時～21時

於：遊魚庵たん熊（東京ドームホテル4階）

A I O Pの参加者31名、通訳者3名、全日病より西澤会長、安藤副会長、猪口副会長、飯田常任理事、長谷川敏彦教授（日本医科大学）、長谷川友紀教授（東邦大学）が参加し、懇親会が催された。

懇親会では、各人が両国の医療制度や抱えている問題等についての意見を交換しながら、終始盛り上がりを見せた。

最後にはA I O P 青年部会部会長であるオルタ氏より、各施設と全日病に対する謝辞が述べられ、そして今後の更なる交流が約束され、幕を閉じた。



左上) 懇親会開会の挨拶をする西澤会長（真ん中）

右上) 参加者と病院経営についての意見を交わす猪口副会長

左下) 談笑をする参加者と長谷川敏彦教授

右下) 懇親会全体の様子